同窓生シリーズ
第95回

38回生
山岸 雅和
Masakazu Yamagishi

2017年 広島市内 黒田投手の記念碑製作

略歴
1967年　東京都新宿区に生まれる
1986年　東京都立新宿高校 卒
1987～92年　大学在学中からアルバイトとして鋳物に触れる
1992年　中央大学　法学部政治学科 卒
1992～94年　マツダ西東京に勤務　営業活動の基本を学ぶ
1994年～　山岸鋳金工房にてスタッフとして従事
2005年　山岸鋳金工房　取締役社長に就任
2006年～　沖縄県立芸術大学講師
現在、日本美術鋳造家協会員

「できる」友人たちに囲まれた高校時代が、「代打のいない」仕事に打ち込める出発点

新宿高校に入学して感じた「格差」

新宿高校に入学後半年経ったあたりで「背伸びしすぎた」と思いました。同期の友人達が自分よりはるかに優秀であると気づいたからです。正直、同期との「格差」を感じました。

私の父は彫刻家・美術鋳造家、母は書道家、叔父は声楽家。私自身も頭で覚えることより体で覚えることの方が得意で、正直勉強はあまり得意ではありませんでした。親族が芸術関係ばかりという環境もあり、子供の頃から「他人と違うことをしろ」と言われ続けていましたので、「できる」同期を前にして、高校入学早々に自分が何をしていくべきかを深く考えることになりました。

後列一番左が山岸氏。京都・奈良方面への修学旅行は電車のなかでも大騒ぎだった

部活動での挫折と出会い

入学後すぐにサッカー部に入部。中学からサッカーを始め、朝5時に起きて新宿中央公園で、夜も11時近くまで自主練を続けるほどサッカーにハマっていました。ところが、「背伸びしすぎた」ことに気づいた同時期に、膝内側靭帯を痛めてしまい、サッカー部をやむなく退部することになり、虚脱感に陥ってしまいました。

そんな時に誘いがあり軽音部へ。小学生の頃から楽器には馴染みがあり、「他人と違うこと」を実践できる身近な方法であったとも思います。ここには個性の強い人達が集まっていて、私の思考に大きな影響を与えてくれました。未だ「ギターオタク」の泥沼にはまっております。

「代打がいないこと」を求めて

大学を卒業し就職。そこそこ順調だったのですが「自分の代打ってたくさんいるんだな」という出来事があり、「代打がいないところってどこだろう?」という思いに至りました。

サラリーマンを経験後、「代打のいない」現在の仕事、「美術鋳造」を生業とすることになりました。美術鋳造とは、簡単に言うと「銅像やモニュメントを、金属を熔かして鋳型に流し造ること」です。子供の頃から電動工具や火を使い、物を作ることが遊びで、また、大学在学中はこの仕事を手伝っていたので仕事に惑いはなく、ここで自分のポジションを築こうと決意・覚悟しました。伝統技法の継承という面もあり、休みなしの修行が始まったのですが、厳しいものの迷いはありませんでした。

現在は伝統技法も踏襲しながら、国宝・重要文化財の模造・修復から、街のモニュメント、スポーツ選手や芸能人のブロンズ手型等、立体造形物の製作まで手掛けています。直近の一番大きな仕事はミッドタウン日比谷の3mのゴジラブロンズ像でしょうか。業界内では「無茶な仕事だがとりあえず困ったら山岸に聞いてみよう」となっているようで、ようやく自分のポジションを見つけられたと思えます。まだまだ課題はありますが。

2018年 日比谷 ゴジラ製作

いつまでも変わらない大事な友人たちへの感謝

仕事に没頭していたこともあり、卒業してから20数年、同期と連絡をとることもなく、もちろん会うこともありませんでした。社会的地位が皆より劣ると思っていて、避けていたというのが本当のところです。

7～8年前になるでしょうか、同期数人で飲み会を開くこととなりました。気が進まなかったのですが、行ってみるとそこは高校時代と同じ、現在の仕事や社会的地位などは関係のない場所でした。それから頻繁に何らかの理由をつけて同期会が開かれています。私にとって大事な人たちです、とても。

入学早々同期との「格差」を感じたことがその後の人生に大きな影響を与えました。同期と再会し、今では「格差」を感じたことは正解だったと思えるようになりました。

溶接作業中

鋳込み

自分が「没頭できること」を見つけよう!

よく「職人さんの技ってすごいですね～」と言われたりするのですが、他の時間を削ってそれしかやっていないと言ってもいいので、我々から言わせると「すごい」のは当然で、当然でなければいけないことなのです。お年を召された凄腕熟練工の方たちの世代は、今と違って「隣の芝」の情報も少なく、それに没頭できる環境があったとも聞かされます。一つのことに集中して没頭することでそれをアイデンティティとしたのではないでしょうか。勉強もしかりだと思います。没頭できるのも学生のうちだけです。

今は情報があふれている時代です。高校生の時期は選択肢が多く、迷い・悩みも多いでしょう。まだまだ悩む時間はありますが、「没頭できること」を早く見つけられることを願います。

自分の特性を理解し、フィールドを探し、開拓し、覚悟をもって取り組む。

シンプルで当たり前のことでしょうが、必要なのはこれだけだな、と今では思えます。あと、具体的に「こうなったらいいな～」って思える妄想癖も大事かも。夢ですね。